



Report 3

牛尽くしで和牛の里を熱くPR 第14回口和モーモー祭2014



▲牛と子どもの綱引き

2年に1度の口和モーモー祭が10月11日・12日の両日、口和総合運動公園で開催され、台風が心配されましたが、延べ2万3千人の来場でにぎわいました。

牛が主役の大イベント「モーモー大行進」や「牛と子どもの綱引き」など、多くのイベントが盛りだくさん。ステージでは、地元の芸能や各団体などの出し物、初日に沖野保彦さん、上杉千恵美さんの「歌謡ショー」、二日目には鳥羽一郎さんの「歌謡バラエティ」などで盛り上がりました。

恒例の広島県産黒毛和牛の炭火焼コーナーでは、大勢の家族連れなどがおいしそうに肉を頬張っていました。もも肉の丸焼きコーナー、地元の特産品即売などでは長い行列ができ、皆さん秋の味覚を満喫していました。

Report 4

躍動する子どもたちに今年も感動！ 第15回庄原こどもミュージカル

第15回庄原こどもミュージカル「モモと時間どろぼう」が10月19日、庄原市民会館で開催され、1部・2部の公演で延べ約650人が観賞に訪れました。

今年は、庄原、三次、福山、津山市から91人が公募で集まり、6月から練習を重ねてきました。

本番の前に子どもたちは緊張気味でしたが、幕が上がると表情は一変。長い台詞、歌に踊りと笑顔で躍動し、それぞれの役柄を元気いっぱいに演じました。そんな子どもたちの姿に、観客からは大きな拍手が送られていました。

この日は、広島東洋カープのマスコット「スライリー」も応援に駆けつけ、会場を沸かせました。

実行委員長の見玉節さんは「子どもたちの力は本当

に素晴らしく、毎回感動させられる。今回記念すべき15回を迎えられた。これを節目にこれからも頑張っていきたい」と話していました。



▲元気いっぱい演じる子どもたち

Report 5

会場に響く至極のハーモニー 第38回県北合唱祭



▲東城コールエコーの発表の様子

第38回県北合唱祭が10月5日、東城文化ホールで開催されました。

これは広島県北合唱団体連絡ネットに加盟の庄原市、三次市、安芸高田市で活動する14団体が毎年開催するもので、技術の向上と合唱団相互の交流を目的にしたステージ発表です。コーラスの素晴らしさが受け継がれて、今年で38回を迎えました。

地元東城町の東城コールエコーをはじめ、各団体が2～3曲を発表し、フィナーレは出演者と観客を含めた約350人で「大地讃頌」と「ふるさと」を合唱しました。

満席のホールには壮大なハーモニーが響き渡り、一体感のある合唱の感動に包まれました。

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1

さわやかに風を切り自然を感じる 灰塚ダム湖畔ウォーキング&サイクリングフェスタ

里山を楽しむ町イベント実行委員会が主催する県北初のサイクリングイベント「灰塚ダム湖畔ウォーキング&サイクリングフェスタ」が9月28日、総領町をメイン会場に開催され、市内外から約220人が参加しました。



▲一斉にスタートするサイクリストたち

サイクリングはロングコース（110km）とショートコース（32km）の2コースが設けられ、晴天の中、サイクリストたちが颯爽と自転車で駆け抜けました。

ロングコースでは、灰塚ダム湖周辺や東城の古い町並みなどを眺めながら走行し、自然豊かな県北の秋を満喫しました。

3カ所の休憩所では、地元の人たちが飲み物やおにぎりなどを用意し、参加者をもてなしました。

また、2本のポールを使って2キロ歩くノルディックウォーキングやバザーも同時に行われ、大勢の人でにぎわいました。

サイクリングイベントの参加者からは「自然の景色を楽しみながら走り、とても気持ち良かった。休憩所でのカレーやケーキもおいしかった。ぜひ次回も参加したい」と喜んでいました。

Report 2

産直市を活用した地域活性化を 地もと一くプラス中山間地域振興リレーシンポジウムin庄原

中山間地域の価値を再認識し、県のさまざまな中山間地域施策の取り組みを知ってもらうために県内各地で開催されているシンポジウム「地もと一くプラス」（県主催）が9月27日、ウイル西城で開催され、市内外の産直関係者や農家ら約230人が来場しました。

俳優で農業コンサルタントの永島敏行さんが、「産直市を活用した地域活性化」と題して講演。講演の中では、農業に興味をもった経緯について述べた後、東京で自ら経営している産直市での体験談や取り組みについて紹介し、「生産者が売り場で消費者に触れ合い、ファンになってもらうことが大切」と語りました。

また、「人が集まる産直市をつくろう」と題したパネルディスカッションでは、「イザナミ茶屋」（西城町）の藤崎幸恵店長がこれまでの取り組みについて報告し、「道の駅たかのわいわい高原市場」（高野町）の前田万里子店長が集客を増やす工夫について発表しました。

来場した産直関係者からは「明日からまたがんばろうという気持ちになった」などの声が上がリ、同時開催された庄原逸品PRブースでは、「市内でこんなにたくさん商品が作られていることを知らなかった。どれもおいしかった」といった声が聞かれ、中山間地域の魅力について改めて考える機会となりました。



▲講演する永島敏行さん



▲逸品PRブースの様子



▲取り組み発表するパネラーの皆さん



Report 6

部（しとみ）山登山道を甦らせよう 高野里山創生クラブが整備ボランティアを実施

9月8日から30日にかけて、記念樹の植樹や里山の環境保全を目的に活動している高野里山創生クラブの皆さんが、部山登山道の整備ボランティア活動を行いました。

部山は高野町新市地区に位置する標高775mの小山で、頂上には戦国時代に多賀山氏が居城にしていたとされる部山城跡があります。頂上に続く登山道は、昭和60年頃まできれいに整備されていたのですが、整備作業が入る前は木々や草が道を塞ぐように生い茂り、地元の人でもほとんど登る人がいないような状態でした。

登山道の整備作業は、クラブの皆さんが草刈機やチェーンソーを用いて行い、約3週間をかけて完了。登山シーズンを迎える前に登山道本来の姿が甦りました。

高野里山創生クラブ代表の中村勉さんは「大人はもちろん、小中学生に登ってもらい、地域の山に登る楽しさを体験してもらいたい」と話していました。



▲上：整備作業前、下：整備作業後

Report 7

地域内でのふれあいのひととき 比和でブローチ作り&フラワーアレンジメント

比和上地域の女性たちが集まるフレッシュホームが9月25日、「手芸で楽しいひとときを」と題して行われ、15人が参加しました。



▲完成を喜ぶ皆さん

2カ月に1回、毎回違ったテーマで行われ、地域の皆さんの大事なふれあいの場となっています。

今回は、まず午前中にブローチ作り、午後にはフラワーアレンジメントが行われました。

ブローチはペットボトルのキャップを使った帽子の形をしたもので、赤や黄色、青などさまざまな色の紐やリボンを使い、それぞれ皆さんの個性あふれるブローチが出来上がっていました。

フラワーアレンジメントでは、多くの花や草木が用意され、皆さん好みのものを選び、バランスを考えながら生けていきました。360度どこから見てもバランスよく見えるように構成するのがポイントだということで、皆さん「難しい」と四苦八苦していましたが、楽しくおしゃべりしながら終始笑いの絶えない時間を過ごしていました。

Report 8

市民手作りの芸術に触れる 第18回であいとふれあいフェア・第48回庄原市西城町美展

生涯学習フェスティバル「第18回であいとふれあいフェア」が10月18日、ウイル西城で行われ、町内で芸能活動をしている17団体、延べ142人が日頃の活動の成果を存分に披露しました。

また、18日から3日間にわたり西城自治振興センターで行われた「第48回庄原市西城町美展」には、町内から絵画や写真、書、手工芸作品など延べ506点の作品が展示され、3日間で560人が訪れました。力作ぞろいの作品を前に出展者と談笑する姿が見られました。

この3日間を通して出演者、出展者は日頃の活動を振り返るきっかけになり、来場者は西城の芸能・芸術の秋に触れ、関心を深めていました。



▼コールドグリーン



▲力作をじっくり